

ふくしまブルーリスト(侵略的外来種リスト)

(8) 植物

No.	高次分類群名	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
1	シダ植物	サンショウモ科	外来アゾラ類	<i>Azolla</i> spp.	○(アゾラ・クリスタタ)	緊急対策外来種(アゾラ・クリスタタ)		浜通りの低地。前河浦(南相馬市)など津波被災地で特に顕著である。	ため池や水たまり、流れが緩やかな水路などで大繁茂し、水面の一面を覆う。	重点対策外来種	①②③		分類が難しく、現時点では特定外来生物のアゾラ・クリスタタを他の外来アゾラと区別するのは困難である。
2	シダ植物	サンショウモ科	オオサンショウモ	<i>Salvinia molesta</i> D.Mitch.		重点対策外来種		裏磐梯の温かい湧水(川上湯沼)とその下流。	流れが緩やかな水路などで繁茂し、水面を覆う。	重点対策外来種	①②③		
3	被子植物	ジュンサイ科	フサジュンサイ	<i>Cabomba caroliniana</i> A.Gray		重点対策外来種		浜通りと中通りの低地と盆地。定着箇所はまだ少なく、いわき市と白河市(小南湖)で確認され、かつて南湖にも生育していた。	ため池で時に一面に繁茂する。	重点対策外来種	①②③		別名ハゴロモモ。
4	被子植物	スイレン科	園芸スイレン	<i>Nymphaea</i> sp.		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	湖沼、ため池などで繁茂している。時に景勝地で湖面全域を覆い景観を悪化させ、ボートの走行や釣りなどを阻害する。	緊急対策外来種	①②③	矢の原温原で駆除により消失した。南湖公園で継続的な駆除が行われている。	花が美しいことから保全の対象とされることがあるため、普及・啓発が重要である。
5	被子植物	オモダカ科	ナガバオモダカ	<i>Sagittaria weatherbiana</i> Fernald		重点対策外来種		会津盆地の湧水のある池(白山沼)。	湖底で一面に繁茂する。	重点対策外来種	①②③		別名ジャイアントサジタリア。
6	被子植物	トチカガミ科	オオカナダモ	<i>Egeria densa</i> Planch.		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	湧水や湧水のある小川や湖沼で繁茂する。	重点対策外来種	①②③		
7	被子植物	トチカガミ科	コカナダモ	<i>Elodea nuttallii</i> (Planch.) St.John		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。裏磐梯、尾瀬沼、猪苗代湖などで特に顕著である。	湖沼、ため池、溪流、用水路などで繁茂し、時に景勝地で湖面全域を覆い景観を悪化させ、ボートの走行や釣りなどを阻害する。	緊急対策外来種	①②③④	南湖公園では駆除によりほぼ消失している。裏磐梯(五色沼湖沼群周辺、曲沢沼)、南湖公園周辺で継続的な駆除が行われている。	
8	被子植物	トチカガミ科	アマゾントチカガミ	<i>Limnobiium laevigatum</i> (Humb. et Bonpl. ex Willd.) Heine		重点対策外来種		福島市の盆地。	伏流水のある池に生育する。定着箇所は1箇所であるが密に生育している。	重点対策外来種	①②③		
9	被子植物	ユリ科	タカサゴユリ	<i>Lilium formosanum</i> A.Wallace		その他の総合対策外来種		浜通りと中通りの低地から丘陵地。	草地、空き地、路傍、土手などで繁茂している。	その他の総合対策外来種			分類が難しく、現在の知見ではシンテッポウユリとの区別が難しい。花が美しいことから庭や花壇に植えたり、草刈りの際に刈り残されることがあるため、普及・啓発が重要である。
10	被子植物	ユリ科	シンテッポウユリ	<i>Lilium x formolongo</i> Hort.		その他の総合対策外来種		浜通りと中通りの低地から丘陵地。	草地、空き地、路傍、土手などで繁茂している。	その他の総合対策外来種			分類が難しく、現在の知見ではタカサゴユリとの区別が難しい。花が美しいことから庭や花壇に植えたり、草刈りの際に刈り残されることがあるため、普及・啓発が重要である。
11	被子植物	アヤメ科	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i> L.		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。裏磐梯、猪苗代湖の湖沼の他、南湖公園、中村城など水辺を伴う史跡等で特に顕著である。	湖沼岸、湿地、川岸や河川などで繁茂し、湿地植生や湿地の希少植物の生育に悪影響を与え、景勝地を含む各地で目立つ黄色い花で夏の景観を大きく変えてしまっている。	緊急対策外来種	①②③	裏磐梯(五色沼湖沼群周辺)、南湖公園で継続的な駆除が行われている。	花が美しいことから草刈りの際に刈り残されることがあるため、普及・啓発が重要である。
12	被子植物	キジカクシ科	アツバキミガヨラン	<i>Yucca gloriosa</i> L.		重点対策外来種		海岸。いわき市内で顕著である。	砂浜に生育する。尖った葉が海水浴客などに危険である。植物体が大型なので、砂浜の景観を変えてしまう。	重点対策外来種	①②③④	福島県により駆除が行われたことがある。	
13	被子植物	ヤシ科	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i> (Hook.) H.Wendl.		その他の総合対策外来種(国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種、九州北部以北の森林内など)		浜通りと中通りの低地と盆地。	畑や庭で栽培され、里地や里山の様々な環境に逸出することがある。	産業管理外来種	①②③		
14	被子植物	カヤツリグサ科	メリケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i> Lam.		重点対策外来種		浜通りの低地。	河川敷や湿地に生育する。	重点対策外来種	①②③		
15	被子植物	イネ科	コヌカグサ	<i>Agrostis gigantea</i> Roth		産業管理外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から亜高山。仙台平(田村市)などで特に顕著である。	草地、路傍、林縁などで繁茂し、特に牧草地や緑化を行った道路斜面などで一面に生育している。	重点対策外来種	①②③		飼料や緑化に用いられており、レッドトップの名で流通している。
16	被子植物	イネ科	クロコヌカグサ	<i>Agrostis nigra</i> With.		産業管理外来種		会津の亜高山。	尾瀬(沼山峠)で生育が確認された。	重点対策外来種	①②③		
17	被子植物	イネ科	ハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i> L.		その他の総合対策外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から亜高山。	草地、路傍、林縁、疎林などで繁茂している。	その他の総合対策外来種	①②③		牧草として使われたことがあった。スイートパーナルグラスの名でハーブとして流通している。
18	被子植物	イネ科	カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i> L.		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	路傍、草地、林縁、空き地、土手などの至る所で繁茂する。	産業管理外来種	①②③④		花粉症の原因植物となっている。飼料や緑化に優れ、広く用いられる。オーチャードグラスの名で現在でも広く流通している。
19	被子植物	イネ科	シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i> (Schrud.) Nees		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	草地、河川敷、路傍などで繁茂する。阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。	重点対策外来種	①②③		かつて土止めとして利用された。ウイーピンググラグラスの名で流通していた。
20	被子植物	イネ科	ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i> Lam.		産業管理外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から山地。	路傍、草地、林縁、空き地、土手などの至る所に生育する。	産業管理外来種	①②③		飼料や緑化に優れ、広く用いられる。イタリアンライグラスの名で現在も広く流通している。
21	被子植物	イネ科	ホソムギ	<i>Lolium perenne</i> L.		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	路傍、草地、林縁、空き地、土手などに生育する。	産業管理外来種	①②③		飼料や緑化に優れ、広く用いられる。ベレニアルライグラスの名で現在も広く流通している。
22	被子植物	イネ科	アメリカスズメノヒエ	<i>Paspalum notatum</i> Flügge		産業管理外来種		浜通りと中通りの低地や盆地。	路傍、耕作地周辺などに生育する。	重点対策外来種	①②③		飼料や緑化に用いられる。パヒアグラスの名で流通している。
23	被子植物	イネ科	オオアワガエリ	<i>Phleum pratense</i> L.		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	路傍、草地、林縁、空き地、土手などの至る所に生育する。	産業管理外来種	①②③④		花粉症の原因植物となっている。飼料や緑化に優れ、広く用いられる。チモシーの名で現在でも広く流通している。
24	被子植物	イネ科	モウソウチク	<i>Phyllostachys edulis</i> (Carrère) Houz.		産業管理外来種		浜通りと中通りの低地から丘陵地。	里地や里山に植えられ、放置された場所で周辺に広がっている。	産業管理外来種	①②③		タケノコが食用にされ、竹細工などに用いられる。
25	被子植物	イネ科	ハチク	<i>Phyllostachys nigra</i> (Lodd. ex Loud.) Munro var. <i>henonis</i> (Bean ex Mitford) Stapf ex Rendle		産業管理外来種		浜通りと中通りの盆地から山地。	里地や里山に植えられ、放置された場所で周辺に広がっている。	産業管理外来種	①②③		モウソウチクよりも稀であるが、タケノコが食用にされ、竹細工などに用いられる。

ふくしまブルーリスト(侵略的外来種リスト)

(8) 植物

No.	高次分類群名	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
26	被子植物	イネ科	マダケ	<i>Phyllostachys reticulata</i> (Rupr.) K.Koch		産業管理外来種		中通りの盆地。	里地や里山に植えられ、放置された場所で周辺に広がっている。阿武隈川河川敷で繁茂し、陸地化など治水への悪影響もおよぼしている。	重点対策外来種	①②③④		タケノコが食用にされ、竹細工などに用いられる。
27	被子植物	イネ科	オニウシノケグサ	<i>Schedonorus phoenix</i> (Scop.) Holub		産業管理外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から亜高山。	草地、路傍、空き地、土手などで繁茂する。	その他の総合対策外来種	①②③		飼料や緑化に用いられる。トールフェスク、ケンタッキー31フェスクの名で流通している。
28	被子植物	イネ科	セイバンモロコシ	<i>Sorghum propinquum</i> (Kunth) Hitchc.		その他の総合対策外来種		浜通りと中通りの低地から丘陵地。	土手や路傍で繁茂する。	その他の総合対策外来種			
29	被子植物	イネ科	ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i> (L.) C.C.Gmel.		産業管理外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から山地。	路傍、芝生、草地、空き地、土手などの至る所で繁茂する。	重点対策外来種	①②		果樹園の下草に用いられ、現在でも流通している。
30	被子植物	ケシ科	コマクサ	<i>Dicentra peregrina</i> (Rudolph) Makino		重点対策外来種 (国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種、白山など高山帯)	○	自生は燧ヶ岳で知られる。	吾妻山に最近出現した。自生か播種されたものか不明である。	重点対策外来種	①②③		
31	被子植物	アキノトウグサ科	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i> (Vell.) Veldc.	○	緊急対策外来種		浜通りと中通りの低地から丘陵地。	池や水路などで繁茂している。現在知られている生育箇所は数カ所、まだ少ない。	重点対策外来種	①②③		
32	被子植物	マメ科	イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i> L.		重点対策外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から亜高山。	草地、湿地、河岸、路傍、林縁などで繁茂し、湿地種生や湿地の希少植物の生育に悪影響を与えている。2001年以降阿武隈川の支流から下流までの広く確認されるようになっており、阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。海岸防災林事業区内に設けられた保護区で繁茂している。	重点対策外来種	①②③	尾瀬(御池)で継続的に駆除が行われている。	緑化に盛んに用いられた。別名クロバナエンジュ。
33	被子植物	マメ科	ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i> L.		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	河川や湖沼沿いに繁茂しているほか、緑化により植林、植樹された海岸林、里地・里山の周辺に広く逸出している。目立つ白い花で春の里地の景観を大きく変えてしまっている。阿武隈川では上流から下流までの広い面積を専有しており、阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。河川巡視時やモニターの視界不良をもたらすなど、治水への悪影響もおよぼしている。	重点対策外来種	①②③④		繁茂の面積や治水への影響などから福島県内で最も対策が必要な外来種の一つであるが、有効な駆除方法が確立していないため重点対策外来種としている。別名ニセアカシア。「アカシア蜂蜜」の蜜源として有用な樹種で現在でも盛んな利用がある。駆除の前に、所有者、管理者、利用者がいないか確認し、いる場合は周辺への逸出防止などの管理を依頼した上で、利用を認めることも必要である。
34	被子植物	マメ科	ナヨクサフジ	<i>Vicia villosa</i> Roth subsp. <i>varia</i> (Host) Corb.		産業管理外来種		中通りと会津の盆地。	河川敷、路傍などに生育する。	重点対策外来種	①②③		飼料や緑肥に用いられる。スムーズベッチの名で流通している。
35	被子植物	マメ科	ビロードクサフジ	<i>Vicia villosa</i> Roth subsp. <i>villosa</i>		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地や盆地。	河川敷、路傍などに生育する。	重点対策外来種	①②③		飼料や緑肥に用いられる。ヘアリーベッチの名で流通している。
36	被子植物	バラ科	ピワ	<i>Eriobotrya japonica</i> (Thunb.) Lindl.		産業管理外来種		県内ほぼ全域の低地と盆地。	里地や里山に植えられ、放置された場所で周辺に広がる可能性がある。	産業管理外来種	①②		果実が食用にされる。
37	被子植物	ウリ科	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i> L.	○	緊急対策外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から山地。	河川敷、林縁、畑、路傍、土手などの至る所で繁茂する。木本も含めて植生を覆い尽くし、景色を一変させる。阿武隈川全域の河川敷や堤防の至る所で大繁茂しており、阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。	緊急対策外来種	①②③④	南湖公園、裏磐梯(小野川湖周辺)、福島大学金谷川キャンパスで継続的に駆除が行われている。	
38	被子植物	アカバナ科	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i> Hill		重点対策外来種		浜通りの海岸、低地から山地。	砂浜などの海岸などで繁茂している。	重点対策外来種	①②③		
39	被子植物	ニガキ科	ニワウルシ	<i>Ailanthus altissima</i> (Mill.) Swingle		重点対策外来種		福島市や郡山市など、盆地や平野の市街地周辺等。	道路や鉄道の土手などで繁茂している。	重点対策外来種	①②③④		別名シンジュ。樹液が皮膚に付くとかぶれることがある。
40	被子植物	アブラナ科	ハルザキヤマガラシ	<i>Barbarea vulgaris</i> R.Br.		その他の総合対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	草地、湿地、河岸、路傍などで繁茂し、特に河川敷や堤に一面の群落を作り、目立つ黄色い花で春の河川の景観を大きく変えてしまっている。	重点対策外来種	①②③		
41	被子植物	アブラナ科	オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i> R.Br.		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	溪流、水路などで繁茂している。ピャッコイ生育地、尾瀬ヶ原など生物多様性保全上重要な場所にも生育している。	重点対策外来種	①②③	尾瀬ヶ原で継続的な駆除が行われている。	食用にクレソンの名で流通している。オオバタネツケバナなど同所に生育する類似種との区別は難しく、誤認で駆除してしまう事例が時々見られる。
42	被子植物	タデ科	エゾノギンギシ	<i>Rumex obtusifolius</i> L.		その他の総合対策外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	草地、路傍、空き地、土手などで繁茂する。保護上重要な植物であるノダイオウと盛んに交雑する。雑種トガマダイオウは県内のノダイオウ分布地の各地で確認されている。	その他の総合対策外来種			
43	被子植物	タデ科	トガマダイオウ	<i>Rumex x hybridus</i> Kindb.				県内ほぼ全域の低地から亜高山。	路傍や林縁に生育する。保護上重要な植物であるノダイオウと外来種であるエゾノギンギシの雑種と考えられている。ノダイオウと戻し交雑をする可能性が指摘されている。	重点対策外来種	③		
44	被子植物	ヒユ科	ナガエソルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i> (Mart.) Griseb.	○	緊急対策外来種		いわき市の農地。	用水路や水田畦畔などで確認された。	緊急対策外来種	①②③④		再生力が強く、数センチの茎断片から容易に発根する。茎は千切れやすく水に浮くため、断片が用水・河川を介して運ばれ、拡散性が高い。水田や畑で繁殖すると、作物との競合による収穫量の減少や農業機械の作業性の低下をもたらす。また、河川や用水路で繁茂すると、取水や排水の障害になることがある。
45	被子植物	スベリヒユ科	ヒメマツバボタン	<i>Portulaca pilosa</i> L.		重点対策外来種		いわき市の低地。	砂利道に生育する。1箇所を確認された。	重点対策外来種	①②③		
46	被子植物	マタタビ科	キウイフルーツ	<i>Actinidia chinensis</i> Planch. var. <i>deliciosa</i> (A.Cheval.) A.Cheval.		産業管理外来種外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	畑や庭で栽培され、里地や里山の様々な環境に逸出することがある。	産業管理外来種	①②		
47	被子植物	キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i> L.		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	庭園などで栽培され、しばしば逸出し、里地の路傍、疎林などで繁茂する。	重点対策外来種	①②		
48	被子植物	ヒルガオ科	マメアサガオ	<i>Ipomoea lacunosa</i> L.		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から丘陵地。	路傍に生育する。定着箇所は少ない。	重点対策外来種	①②		
49	被子植物	オオバコ科	イケノミズハコベ	<i>Callitriche stagnalis</i> Scop.		重点対策外来種		浜通りの低地。	湧水や小川などで繁茂する。	重点対策外来種	①②③		湧水に侵入して繁茂すると駆除が困難なので、早期の対応が重要である。

ふくしまブルーリスト(侵略的外来種リスト)

(8) 植物

No.	高次分類群名	科名	和名	学名	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト区分	国内外来種	県内分布	県内の被害状況	福島県対策優先カテゴリー	被害の深刻度に関する基準	対策事例	備考
50	被子植物	オオバコ科	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i> L.		重点対策外来種 (国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種、高山帯)	○	県内ほぼ全域の低地から高山。	ハクサンオオバコ（福島県では飯豊山の高山帯のみに分布する）との交雑が危惧されているが、福島県では研究が進んでおらず、交雑の実体は不明である。路傍、空き地、草地などで繁茂する。	重点対策外来種（飯豊山において）	①②③		
51	被子植物	オオバコ科	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i> L.	○	緊急対策外来種		県内ほぼ全域の低地と盆地。	河川、水路で繁茂する。阿武隈川で生育している場所では一面に繁茂して、他の植物の生育を抑制している様子が見られることから、阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。在来で保護上重要な植物のカワヂシャと交雑することが知られており、福島県内でも雑種のホナガカワヂシャが確認されている。	重点対策外来種	①②③		
52	被子植物	ゴマノハグサ科	フサフジウツギ	<i>Buddleja davidii</i> Franch.		重点対策外来種		会津の盆地。	路傍に生育する。定着箇所は少ない。	重点対策外来種	①②		園芸に用いられ、ブッドレアの名で流通している。別名チヂフジウツギ。
53	被子植物	シソ科	コショウハッカ	<i>Mentha x piperita</i> L.				会津の盆地から山地。特に裏磐梯で顕著である。	湖沼岸、湿地などで繁茂する。	重点対策外来種	①②③	裏磐梯（五色沼湖沼群周辺）で継続的な駆除が行われている。	園芸に用いられ、ブッドレアの名で流通している。別名チヂフジウツギ。
54	被子植物	キク科	オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i> L.		重点対策外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から丘陵地。阿武隈川などで特に顕著である。	湿地や河川沿いに生育し、河川敷などで大群落を作る。阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。	重点対策外来種	①②③④		花粉症の原因植物となっている。1987年には福島県で大群落が成立していることが報告されている。1992年の河川水辺の国勢調査の時から阿武隈川の上流から下流まで広く確認されている。別名クワモドキ。
55	被子植物	キク科	キク	<i>Chrysanthemum morifolium</i> Ramat.		その他の総合対策外来種		浜通りと中通りの低地から山地。	民家の庭や集落周辺の路傍、田畑周辺、林縁などに植栽され、逸出している。キク属の在来種（福島県の場合はリュウノウギク、コハマギクなど）との交雑が危惧されているが、福島県では研究が進んでおらず、交雑の実体は不明である。	その他の総合対策外来種			
56	被子植物	キク科	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i> L.	○	緊急対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	路傍、空き地、土手などで繁茂する。	重点対策外来種	①②③	南湖公園で継続的な駆除が行われている。	河原の固有種の生育地で問題となっていることから外来生物法で特定外来生物に指定されている。県内では今のところ河原の保護上重要な植物への影響などは明らかになっていない。花が美しいことから草刈りの際に刈り残されることがあるため、普及・啓発が重要である。
57	被子植物	キク科	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i> Lam.		その他の総合対策外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	草地、空き地、路傍、林縁、河川敷、土手などで繁茂している。	その他の総合対策外来種		尾瀬（沼山峠）で継続的な駆除が行われていることがあるため、普及・啓発が重要である。	
58	被子植物	キク科	コウリンタンポポ	<i>Pilosella aurantiaca</i> (L.) F.Schultz et Sch.Bip.		その他の総合対策外来種		中通りと会津の盆地、丘陵地から高山。	磐梯山の高山のガレ場やお花畑、登山道沿いで繁茂し、パンダイクワガタなどの高山植物と競合している。目立つオレンジ色の花で景勝地の夏の景観を大きく変えてしまっている。盆地、丘陵地から亜高山でも、路傍、草地などで繁茂していることがある。	緊急対策外来種（高山において）、その他の総合対策外来種（高山以外において）	①②③	磐梯山で継続的な駆除が行われている。	花が美しいことから庭や花壇に植えたり、草刈りの際に刈り残されることがあるため、普及・啓発が重要である。
59	被子植物	キク科	オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i> L.	○	緊急対策外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。裏磐梯、南会津町（旧田島町、館岩村）、安達太良山（福島市の国道115号線沿い）などで特に顕著である。	草地、湿地、河岸、路傍、林縁などで繁茂し、湿地植生や湿地の希少植物の生育に悪影響を与え、景勝地を含む各地で目立つ黄色い花で夏の景観を大きく変えてしまっている。	緊急対策外来種	①②③	各地で駆除が行われている。尾瀬、裏磐梯（五色沼湖沼群周辺など）、南湖公園で継続的に駆除が行われている。	
60	被子植物	キク科	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i> Poir.	○	緊急対策外来種		いわき市の低地から丘陵地。	海岸林、岩場、砂浜、路傍、花壇などで繁茂する。	重点対策外来種	①②③		
61	被子植物	キク科	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i> L.		重点対策外来種		県内ほぼ全域の海岸、低地から山地。	河川敷、草地、湿地、路傍、空き地、土手などの至る所で繁茂する。目立つ黄色い花で里地の秋の景観を大きく変えてしまっている。阿武隈川と荒川の河川生態系に特に大きな悪影響を与えている外来植物の一つとして挙げられている。海岸防災林事業区内に設けられた保護区で繁茂している。	重点対策外来種	①②③	南湖公園で継続的に駆除が行われている。	
62	被子植物	キク科	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea</i> Aiton subsp. <i>serotina</i> (Kuntze) McNeill		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	路傍、草地、土手などで繁茂する。	重点対策外来種	①②③		
63	被子植物	キク科	アカミタンポポ	<i>Taraxacum laevigatum</i> (Willd.) DC.		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から山地。	路傍、空き地、土手などで繁茂する。	重点対策外来種	③		
64	被子植物	キク科	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i> Weber ex F.H.Wigg.		重点対策外来種		県内ほぼ全域の低地から亜高山。	路傍、空き地、土手などで繁茂する。	重点対策外来種	③		